

図書だより

令和7年度 第1号 兵庫県立神崎高等学校 図書委員会

図書委員からのおすすめ



1年 榎本龍道

『3千円の使いかた』 原田ひ香 著

登場人物は主に4人で、1人暮らしをはじめた美帆、結婚前は証券会社勤務だった姉・真帆、向上心の高い母・智子、1000万円貯めた祖母・琴子。この御厨(みくりや)家の4人が、人生の節目とピンチをどう乗り越えるのかが見どころです。

1年 大倉脩史

『神様の裏の顔』 藤崎翔 著



僕が紹介するのは横溝正史ミステリ大賞受賞作です。この本は何人も人の視点から物語は進んでいきます。この小説の初めは葬式場から始まります。この葬式の本人は登場人物がみんな尊敬している男です。このように物語が展開されていきます。最後にはまさかの大どんでん返しが?!ぜひ読んでみてください。



1年 三森望海

『お前の死因にとびきりの恐怖を』 梨 著

私のおすすめするこの本は、他の本と少し違い、本の中にあるQRコードを読み取りUSBメモリーの中身を読みながら話が続きます。このUSBメモリーには、とある男子学生の「死」に関する情報が入っているのですが、それは不気味なものでした。男子学生の死の現場には不可解なものが色々残されていました。破れかけた御札や彼自身の髪の毛。全てはこの本を読むとわかります。

2年 城谷春陽

『かがみの孤城』 辻村深月 著



この本は、ある日、不登校の中学1年生であるところが、自分の部屋に行くと、そこにあった鏡が突然光りだして、その鏡の中にひき込まれて、鏡の向こう側の世界に行き、そこに集合した同年代の6人とどんな願いでも叶えられる鍵を探しながら1年間過ごしていくという物語です。ぜひ読んでみてください。



3年 岡本祐輔

『僕はロボットごしの君に恋をする』 山田悠介 著

2060年の近未来、三度目のオリンピック開催が迫る東京が舞台で、人型ロボットを使う国家的極秘プロジェクトのメンバーである主人公の健は、幼なじみで同僚の陽一郎、そして陽一郎の妹の咲に助けられながら奮闘し、咲が主人公にロボットごしの恋をしていく物語です。ぜひ、読んでみてください。

第71回青少年読書感想文全国コンクール 高等学校の部 課題図書

『銀河の図書館』 名取佐和子 著 (実業之日本社)



宮沢賢治の言葉を残して、突然学校から消えた先輩。その謎を追う高校生たちの青春小説。



『夜の日記(金原瑞人選モダン・クラシック YA)』

ヴィーラ・ヒラナンダニ 著 山田文 訳 (作品社)

イギリスからの独立とともに、分断された祖国。少女と家族は安全を求めて、長い旅に出た。

『コードのぼくが見る世界 聴こえない親のもとに生まれて』

五十嵐大 著 (紀伊國屋書店)

もし、親の耳が聴こえたら——なんて、想像もつかなかった。言葉やコミュニケーションの本質、「善意による差別」ってなんだろう？

